

日本語のとりたて詞と中国語のとりたて副詞 ——「も・さえ・だけ」と「也・都・只」を中心に——

徐 建 敏

1. 本論文は、日本語文法における「とりたて詞」の考え方を取り入れ、中国語の「也・都・只」を「とりたて副詞」として再分類し、「とりたて」という立場に立って日本語の「も・さえ・だけ」と対照を行おうとしたものである。

第一章では、従来副助詞、係助詞とされた「も・さえ・だけ」がとりたて詞として再分類されたのを、沼田(1984)をベースに紹介的に述べ、対照研究に必要なものだけ、その意味特徴を述べた。

第2章では、中国語の「也・都・只」の分布、意味について、とりたて詞的な立場に立って考察し、これらの語を「とりたて副詞」として再分類を試みた。

第3章は対照編で、構文的、意味的、機能的な面で、日本語のとりたて詞と中国語のとりたて副詞、さらに「も・さえ・だけ」と「也・都・只」の比較を行った。

2. 「也・都・只」は中国語の伝統文法では、副詞とされている。副詞の基本的な特徴は用言を修飾することにあるが、「也・都・只」の実例を見ると、その力のかかるのは、むしろ名詞のほうが多いのである。以下の例で[]は「也・都・只」の力がおよぶ対象を示す。

(1) [這個水庫] 也是個頭腦發熱的產物。(このダムものほせあがった頭腦の産物でした)

(2) 千万記住、這件事對 [您父母] 都不能說。(しっかり覚えとけよ。このことは御両親にさえ話してはいけない)

(3) 那天只有 [小王] 沒去學校。(その日、王さんだけは学校に行かなかった)

(1)(2)では、「也」の力が「這個水庫」「父母」に及んでおり、(3)の「只」もその力は「小王」に及んでいると考えられる。いずれも名詞に及んでいるのである。

しかし、日本語文法における「とりたて詞」の考え方を取り入れてみると、実は「也・都・只」も、とりたて詞的な性格を持っていて、動詞、形容詞だけでなく、名詞などもとりたてられるのだと考えられる。

しかし、これらの語の構文的、機能的特徴である、

1. 分布の制限が強い。(原則として主語の後、述語の前にしか位置できない。)

2. 単独使用不可。(単独で質問の答えとならない。例：「你也去嗎？」「也去/×也」)

3. 同類語承接可。(例：「我也只吃了两个饅頭」)

などの点を見るかぎり、副詞と弁別する決定的な特徴を見出すことはできなかった。そこで、これらの語を「とりたて副詞」と名づけ、とりたて性と副詞性を合わせ持った副詞の一下位類として位置づけた。

とりたて副詞の定義は、基本的には沼田(1984)のとりたて詞の定義にしたがいつつも、その副詞的性格を考慮し、次のようにまとめた。

とりたて副詞とは、構文的には副詞に属し、意味的には、主に単文中のさまざまな要素—これを「自者」と呼ぶ—をとりたて、これに対する同類の要素—これを「他者」と呼ぶ—との論理的関係を示す語である。

3. 「也・都・只」の意味分析にあたっては、日本語のとりたて詞の4組8個の基本概念(「自者と他者」「肯定と否定」「主張と含み」「断定と期待」、沼田1984参照)が適用できるとして、その意味特徴を次のようにまとめた。

也₁：単純他者肯定

也₂：強調

也₃：和らげ

都：強調

只：限定

特に「也」は意味の上から3種に分けることができるとした。

(4) [昨天] 下雨、[今天] 也下雨。(昨日雨だったが、今日もまた雨だ) <単純他者肯定>

(5) 今天 [一個人] 也没来。(今日一人も来なかった) <強調>

(6) [你] 也不是小孩子、該懂事了。(おまえももう子供じゃあるまいし、わかってもいいだろう) <和らげ>

(7) [弟弟] 都做出来了、[哥哥] 没做出来。(弟でさえ解けたのに、兄のほうはまだできない) <強調>

(8) 我只学過 [日語]、没学過 [中文]。(私が勉強したのは日本語だけで、中国語はまだ勉強したことはない) <限定>

4. 本論文ではとりたて副詞の重要な特徴の一つである、「とりたてスコープ」についても考察し、「也・都・只」のとりたてのスコープを明らかにした。

日本語のとりたて詞には3種類のスコープがあるが、中国語のとりたて副詞のスコープには、「原則として(主語の後)述語の前にしか位置できない」という構文上の制限により5つの型がみられる。

a 型：直前スコープ

(9) [媽々] 也試試吧、会身材苗条的。(お母さんもいかが、やせるわよ)

b 型：直後スコープ

(10) 最近、我只 [給家里] 写信了。(この頃は家にだけ手紙を出す)

c 型：前方飛越しスコープ

(11) [這麼重要的消息]、你都不知道。(こんな重要なニュースさえ、おまえ知らないか)

d 型：後方飛越しスコープ

(12) 我翻譯科技資料、也翻譯 [小説]。(私は技術資料も小説も翻訳する)

c 型：全文スコープ

(13) 這種情況我們还没有遇到過、[上級也]没有具体指示]。(こういうケースには私はまだぶかったことはなかったし、上のほうからも具体的な指示はない)

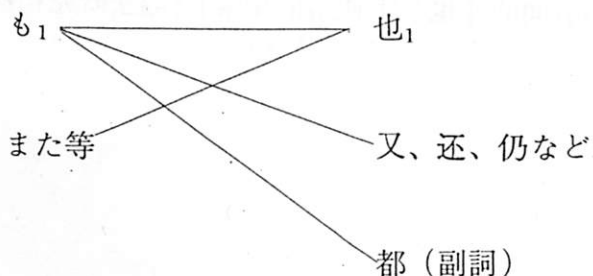
このようなスコープの現れ方の究明により、「も・さえ、だけ」と「也・都・只」との違いについて従来説明できなかった部分も説明が可能になった。

例えば、「も₃」と「也₃」について、従来は対応がないとされていたが、実はこれもスコープと関わりのある問題である。「も₃」は普通、直前スコープしか持たないが、「也₃」は直前スコープと直後スコープの二つを持っていて、後者の場合が「も₃」とは対応しないということなのである。

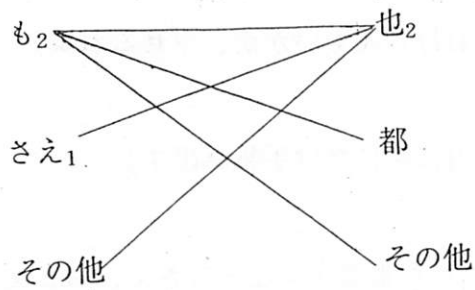
また、とりたて副詞がとりたてる自者についても詳しく考察を行った。日本語のとりたて詞の場合、さまざまなものが自者となりうるのに対し、中国語のとりたて副詞は、数詞、副詞などが自者となるにはかなりきびしい制限があることを明らかにした。そして、それは中国語のとりたて副詞の「とりたて性」が弱いからであると考えた。

5. 日本語のとりたて詞、中国語のとりたて副詞の対応関係は次のようになる。

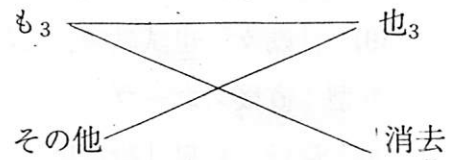
「も₁」と「也₁」



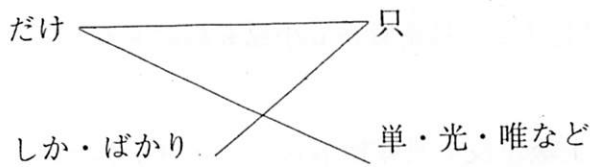
「も₂」と「也₂」



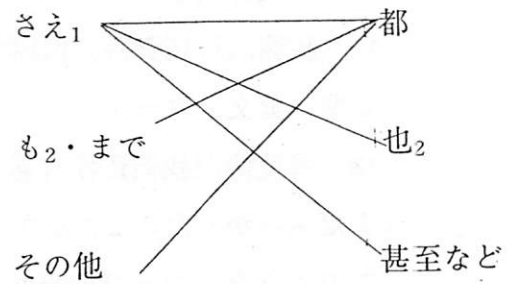
「も₃」と「也₃」



「だけ」と「只」



「さえ」と「都」



さえ₂ 只要

仮定

／主要参考文献／

奥津敬一郎 (1974) 『生成日本文法論』 大修館書店

沼田 善子 (1984) 「とりたて詞の意味と文法——モ・ダケ・サエを例として——」 『日本語学』 第3巻第4号 明治書院

大河内康憲 (1977) 「副助詞『モ』と副詞『也』など」 『日本語と中国語の対照研究』 第2号 大阪外国語大学

呂 叔湘 (1980) 『現代漢語八百詞』 商務印書館

沈 開木 (1984) 「表示異中有同的『也』字独用的探索」 『語法研究和探索』 北京大学出版社